

営農ウィークリーNEWS

向島水稲部による水稲適期刈取 現地検討会を実施

9月25日向島支店水稲部による、恒例の水稲適期刈取現地検討会と採種ほ場の第2期ほ場検査が行われました。

当日は水稲部員のほか、農業改良普及センター、JA職員ら16人でほ場を巡回し、刈取適期の判定を行いました。生育は全体的に良好で、土質により若干登熟のスピードに差がありますが、例年どおりの刈取適期となりました。

また、採種ほ場もおおむね良好で良質な種籾が期待されます。



収穫適期判定のため稲の穂を調査するJA職員



刈取適期を示す掲示板



穂を示して説明する齊藤課長補佐

—TAC information—

多収米「ほしじるし」収穫始まる



写真は、伏見区向島の業務用多収米「ほしじるし」の圃場で収穫直後の様子です。

本年、JA全農が全国で取り組んでいる多収品種の試験栽培で、全量、全農を通じて業務用として出荷されます。9月24日、JA全農本所米穀部西日本米穀販売事業所米穀課、JA全農京都農畜産部米穀課職員が向島の試験栽培5圃場を巡回しました。今後、今年の結果を分析し、この地域に合った栽培方法を模索していきます。

防除所ニュース

発行 令和2年9月24日

令和2年 第5号

京都府病害虫防除所

★ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウ情報

豆類や野菜類を加害するヨトウ類の発生が目立っています。

1. 発生状況

①ハスモンヨトウ (写真1)

- (1) 9月中旬の当所巡回調査での発生量は、黒大豆、アズキ、ナスで平年比やや多くなっています。

作物	項目	本年	平年値(例年値)
黒大豆	白変葉数(10a当たり箇所数)	11.5	4.3
	白変葉数(10a当たり箇所数)	9.3	1.4
ナス	幼虫数(頭/葉)	0.14	0.00
	寄生株率(%)	0.7	(2.1)
ダイコン	寄生株率(%)	0.0	0.2

- (2) 9月第3半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は京田辺市と京丹後市では平年比少ないですが、亀岡市では9月に入り急増しています(図1)。

②シロイチモジヨトウ (写真2)

- (1) 9月中旬の当所巡回調査での発生量は、ネギでやや多くなっています。

作物	項目	本年	平年値
ネギ (葉長40cm未満の小株)	幼虫数(頭/株)	0.06	0.02
	寄生株率(%)	4.7	1.8
	発生ほ場率(%)	50.0	14.4

- (2) 9月中旬現在、ネギ以外にカブ及びナスでも発生を認めています。

- (3) 9月第3半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は京田辺市では平年並ですが、京丹後市で9月に入り急増しています(図2)。

2. 気象予報

- (1) 大阪管区気象台9月17日発表の近畿地方1か月予報によると、気温は高く降水量はほぼ平年並と予想されており、西種とも増殖しやすいと考えられます。

3. 防除上の留意事項

①ハスモンヨトウ

- (1) ほ場を見回り、若齢幼虫分散前の白変葉の早期発見・除去に努めてください。
(2) 齢が進んだ幼虫では農薬の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要です。
(3) 使用農薬は異なる系統のものを用い、同一系統の農薬の連用は避けてください。
(4) 最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認してください。

②シロイチモジヨトウ

- (1) 齢が進んだ幼虫では農薬の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重

要です。

- (2) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、一箇所にとまめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分してください。

- (3) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆類、野菜類、花き類を加害するので注意してください。

詳細は令和元年8月26日付け「病害虫発生予察注意報第6号」参照

<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/r1chuuif6.pdf>



写真1 ハスモンヨトウ老熟幼虫とアズキでの被害



写真2 シロイチモジヨトウ老熟幼虫とネギでの被害

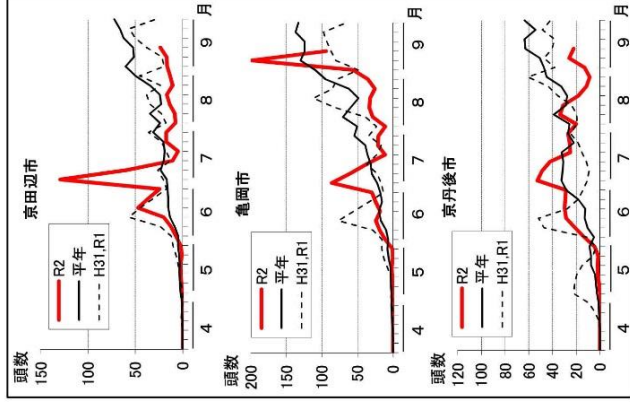


図1 フェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺状況

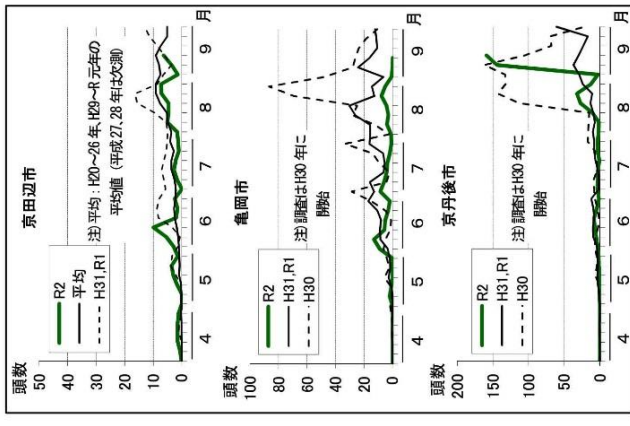


図2 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウの誘殺状況

ハスモンヨトウは最近の農薬はほとんど効きませんが、シロイチモジヨトウは、京都府病害虫防除所の昨年の試験では、効果のある農薬は限られています。殺虫剤についてはJA担当者までご相談ください。